

2024 AUTOBACS SUPER GT ROUND7 AUTOPOLIS GT 3HOURS RACE

NISSAN MECHANIC CHALLENGE Race Report 2024.10.19~20



この活動は下記のパートナー企業様に支えられています。



日産神奈川 日産東京 日産大阪 日産プリンス福島 埼玉日産 日産プリンス埼玉 岐阜日産 愛知日産 日産プリンス名古屋 滋賀日産 京都日産 兵庫日産 愛媛日産 鹿児島日産 帯広日産 日産青森 日産サテライト弘前 日産プリンス宮城 秋田日産 日産プリンス秋田 福島日産 栃木日産 日産プリンス栃木 群馬日産 長野日産 松本日産 日産サテライト埼玉 千葉日産 日産プリンス千葉 日産自動車販売 三重日産 日産プリンス三重 静岡日産 日産プリンス静岡 浜松日産 日産プリンス兵庫 奈良日産 和歌山日産 日産プリンス和歌山 日産プリンス広島 日産プリンス山口 香川日産 日産福岡 日産サテライト佐賀 長崎日産 日産プリンス長崎 日産プリンス大分 旭川日産 北見日産 岩手日産 盛岡日産モーター 日産プリンス岩手 日産サテライト秋田 新潟日産 日産サテライト新潟西 甲斐日産 日産プリンス山梨 日産サテライト千葉 日産サテライト浦南 富山日産 日産サテライト富山 石川日産 福井日産 福山日産 宮崎日産 日産サテライト宮崎

専門 学校 **日産愛媛自動車大学校**

《レース結果》

予選は第2位、決勝は第12位
(天候：曇り 気温：12℃ 路面温度：13℃)

19日(土曜日)に予選が行われる予定でしたが、悪天候により20日(日曜日)の朝8時に延期となりました。30分のなかでそのマシンのベストタイムが採択される「計時予選」方式により予選が行われました。セッション終盤での赤旗中断もあり、連続周回で温めたタイヤがリセットされる悪条件ながらも、ウェイト50kgを積み懸命に走るオリベira選手。タイムは1分46秒785となり、惜しくも予選第2位で決勝に進みました。

午後の決勝では、3時間という長時間レースのなかで気合を入れる佐々木選手とオリベira選手。コースアウトした車両やクラッシュした車両の回収のため、FCYや合計4回のセーフティカーが入る荒れたレースで見事に完走を果たすも、タイムは3時間1分37秒010、順位を第12位とし、第7戦を終えました。



《近藤真彦監督インタビュー》



Q1.雷雨の影響で公式練習、予選がなくなりましたが、どのように感じました？

A.安全を考えて中止になった。審査委員会や主催者側が相談し合っ、一番はドライバーの安全確保。「いや待てよ。霧の中でもうちのドライバー走らせろ！」というわけにもいかないよね。そういう意味では、正しいジャッジだったと思う。ただ、お客さんには、スピーディーに今の現状を知ってもらおうとすることも大事だと思うね。

Q2.以前のインタビューで、日産メカニックチャレンジ活動をしているなかで積極性や行動力のある学生が増えてきた、とおっしゃっていました。今回の学生を見ていて、その考えが変わったりしましたか？

A.いやそんなことはないね。やっぱりこの現場で何が起きるのかなとか、僕達は何をしたらよいかっていうことを常に考えて、目をキラキラさせてピットの中に立っているのがわかるので。朝、ピットに行くと、GT-Rの後ろにみんな集まっていて、挨拶もしっかり「おはようございます」とちゃんと大きな声で言えるし、ハキハキしているなど思っている。若さもあるしね。

Q3.そのなかで「おっ、この子は」と目に留まったりするのですか？

A.そういうのはね、終わったあとに気付くね。レースが終わってチェッカー受けた後に、表情でなんとなく。やり遂げたなっていう顔と、負けて悔しがっている顔もあるし。勝てばもう半べそかいて喜んでいる人もいるしね。

Q4.監督のお仕事、コンサートのお仕事と忙しい中で、「今日は〇〇の予定です。」って言われた時に、「ちょっと今日気分じゃないな」という日はありますか？

A.それはないよ。1週間や2週間のスケジュールを全部把握しているからね。自分のなかで順番に仕事をやっていくっていうのが分かっているし。1週間経ったらまた1週間って把握しているから。2ヶ月、3ヶ月先のことはできないけどね。ただ、ここ最近はやっぱコンサートと色んなイベントとレースとに疲れていて、朝、目が覚めて天井見た時に「俺は今どこにいるんだ?」。今朝も「ん〜今日 あっ、オートポリスだ」と。天井見るだけじゃどこにいるかわかんない。



《ドライバーインタビュー》

Q1.ヘルメットの色とデザインにはどのようなメッセージがありますか？

〈佐々木選手〉

A. 中学からカートレースを始め、中学2年生のときからほぼ同じデザインのヘルメットを使用しています。赤と白の日の丸のイメージから始まったデザインが基本ですが、その中でも自分の好きな色である赤は常に入れてあります。デザインは、ヘルメットメーカーさんに頼んでいるので、出来上がるまでは完成形が全くわからないけれど、レース開幕のときにヘルメットを見て、今年はこのデザインなんだって初めて知ることになります（笑）

〈オリベイラ選手〉

A. デザインを自分でやったのは多分14歳ぐらいのときだったね。

私がデザインを作ったときはまだレースはしておらず、ただ描くのが好きなだけだったな。兄弟はレースをしており、すでに違うデザインを使っていたよ。しかし自分がレースを始めたときは、私が何年にもわたって少し色を明るくしたり暗くしたりして、トーンを変えていき自分のデザインを選んだんだ。私のデザインは若かった時からのものですね。

Q2.今後の将来の夢はありますか？

〈佐々木選手〉

A. まだ、ドライバーを引退したくないな（笑）。JP（オリベイラ）さんとチャンピオンになりたいです。70歳になってもコンビを組んでいたい。JPさんは僕から見たら10歳上の43歳。レーシングドライバーとしては、まずJPさんくらいまでは頑張る。JPさんは今でもチャンピオンを争うドライバー。僕も常にトップを争うドライバーでいたい。そこで活躍して将来はのんびり暮らしたい。

〈オリベイラ選手〉

A. 私の夢は、自分の中でベストな生活を過ごしていくことです。家族との時間も楽しみたい。今、カーレースをとっても楽しんでいるからもっといろんなシーズンで勝てるようになりたい。ル・マンやニュルの24時間レースなどの大きなレースでも勝ちたい。レーサーとしての一面と、自分の生活面で違う目標がある。レーサーとしてはもっと強くなってビッグなレーサーになりたいし、生活面では、家族と良い関係を築いていきたいと思っているよ。



〈自転車に興味の一つであるオリベイヤ選手への質問〉

Q.S-WORKS(SPECIALIZED 製)に乗られていると伺いましたが、他に乗ってみたいメーカーはありますか？

A.私がS-WORKSに乗るのは、私にとってベストのバイクを作っているから。S-WORKSはトップのブランドであり、そのサポートを受けることができるのは幸運なことですね。



〈佐々木選手への質問〉

Q.学生時代は学業とレースをどのように両立していたのですか？



A.目標とゴールを決めたうえで何をしなければいけないのかなど、まずその計画を立てていく。何事にも効率の良さが大事だから同じ努力をしても効率が悪いと時間がどれだけあっても足りないからね。レースも一緒に何をすれば早くなるのかなどを考えます。両立するのは計画があってこそ成り立つものだから僕は重要視しています。もし自分のキャパを超えてしまってできないとなればレース一本に絞るしかない。でも僕はそれができると思えたから実行したまでです。



《日産販売店 TS (テクニカルスタッフ) インタビュー》

愛媛日産自動車株式会社

原 湧太さん(日産愛媛自動車大学校卒 6年目)



Q1.整備士として日頃から心がけていることはなんですか？

A.お客様第一です。

お客様に満足いただけないと、不満だけが残ってしまい、再来店いただけなくなりま
す。どのような内容であっても、お客様に満足いただけるまで整備することを毎日心が
けています。

Q2.今回学んだことをどのように業務に活かしたいですか？

A.1mm までこだわりを持つことを心がけて仕事に取り組みたいです。

レーシングカーは 1mm の誤差で全く違うセッティングになってしまいます。お客様の
車の整備でも全く同じことです。このこだわりをもって今後の業務に取り組みます。

日産プリンス大分販売株式会社

河野 希一さん(日産愛媛自動車大学校卒 6年目)



Q1.日産自動車大学校の学生時代、スーパー耐久レ
ース活動に参加されたと伺いました。今回社会人
として参加してみて、ピット内はどのように感じ
ましたか？

A.学生時代は広報部員として、みなさんと同じ様にこのプロジェクトに携わった人たち
にインタビューしたり写真を撮ったり取材活動をしていましたが、客観的に緊張を感じ
ていました。今回はピットに入って実際に整備作業に携わることができましたが、その
車が他チームのレーシングカーと戦っているのを目の当たりにして、とても大きな緊張
感と責任を感じました。

Q2.今回の日産メカニックチャレンジに参加している学生に一言お願いします。

A.みなさんは、それぞれの思いをもって参加していると思います。僕は、学生時代は人
と話すのが得意ではなかったので、広報部員として参加して自信をつけようと考えまし
た。この時の経験をもとに、さらに接客などを経験して自信をもって人と話せるよう
になりました。みなさんも今回のチャレンジを通して何か一つでも自分が成長できたと感
じてほしいです。

《学生インタビュー》

～ピット・マネージャー～

【一級自動車工学科 1年 青木 椋生】

Q1:日産メカニックチャレンジに応募したきっかけは？

A. 小学生の時から SUPER GT を観ていました。高校時代に日産自動車大学校が日産メカニックチャレンジに取り組んでいて、学生がピットに入って活動できることを知り、自分もやってみたい！と思いこの学校に入学し、応募しました。



Q2:ピット・マネージャーの業務で心がけたことは？

A. チームをサポートする役割なので、チームスタッフに迷惑をかけないのは勿論のこと、ドライバーのお二人のことを最優先に考えて動きました。特に、ピットインした直後はチームスタッフにマシンの状態などを伝える大切な時間なので、ストレスなくタオルやドリンクを渡すタイミングになるよう心がけました。

Q3:印象に残っていることは？

A. チェッカーを受けたあと、マシンを停めたドライバーをタオルと飲み物、上着を持って迎えに行った時です。他チームのドライバーと会話していたりするなど、普段目にすることができない特別な状況は、この役割ではないと経験出来なかったことです。

～テクニカル (ピット作業) 領域～

【一級自動車工学科 3年 大岩 海翔】

Q1:日産メカニックチャレンジに応募したきっかけは？

A. 担任の先生に参加するか相談したときに「せっかく1、2年と日産メカニックチャレンジに参加したなら3年も行って一通り参加してみれば？」と言われたのがきっかけです。

ですが、直ぐには応募しませんでした。理由は、ただ目標もなく応募するなら他の人が行くべきと考えていたので何を目標に参加するか数日悩みました。

今年はリーダーとしてどこまで出来るのか挑戦したいと思ったので、今回テクニカル領域に応募しました。



Q2:今回の経験を学校生活でどのように活かしたい？

A. 日産メカニックチャレンジで経験した「報・連・相」などのコミュニケーションスキルを就職活動や社会生活に活かしていけるよう継続していきます。

【一級自動車工学科 2年 阿部 凌我】

Q1:テクニカル領域の業務で心がけたことは？

A. 周囲の状況を確認し、今とるべき最善の行動を考えることです。自分たちが出来ない作業がある中で、TS(テクニカルスタッフ)の方々と協力することで良いコミュニケーションを取ることが出来たと思います。



Q2:今回の経験を学校生活でどのように活かしたい？

A. 今回のチャレンジで観察力や行動力を高めることが出来たと思います。作業をしていくと一人では出来ないことが必ずあるので、そういったところで率先してサポートしたり、協力を促すようにして、積極的に他のイベントにも参加していけたらと思います。

【一級自動車工学科 2年 藤原 龍騎】

Q1:日産メカニックチャレンジに応募したきっかけは？

A. 周りを見て適切に行動することが得意ではなく、この活動に参加することで、それらを学びたいと思ったからです。



Q2:学んだこと、感じたことは？

A. 周りを見て行動することの必要性や観察力の重要性を学びました。また、レースでは計画通りに進まないことも多く、プロフェッショナルは臨機応変に対応できる能力が高いと感じました。

～マネジメント領域～

【一級自動車工学科 3年 西森 樹】

Q1:日産メカニックチャレンジに応募したきっかけは？

A. 1年生、2年生とマネジメント領域で参加しましたが、毎年自分が思ったように上手く活動できず、次回への課題が見つかりモヤモヤした気持ちのままで1年を過ごしました。今年こそ去年までの問題点を改善してより良いおもてなしをゲストの方々に提供したいと思い参加しました。



Q2:印象に残っていることは？

A. 去年受付が混雑し暑い中ゲストの方々を待たせてしまったため、今年は受付担当の学生の業務をできるだけ簡素化し、スムーズに受付対応ができるようにしました。その甲斐があって大人数で来場されても混雑せずに受付できていたことが一番印象に残っています。

【自動車整備科 2年 大野 健太】

Q1: マネジメントの業務で心がけたことは？

A. 「報・連・相」を蔑ろにしないことです。どの業務でもいえることですが、チームワークを崩さない為には情報の共有が不可欠と考え、他の学生とのコミュニケーションを積極的にとるように心掛けました。

Q2: 今回の経験を学校生活でどのように活かしたい？

A. 今回の経験では特に接客能力と現場での対応力の向上を培うことができました。それを踏まえ、ロールプレイングでの試験や故障診断の対応といった自分の苦手分野の克服に活かしたいと思います。



あとがき(広報部員)

【一級自動車工学科 2年 問谷 祐介】

昨年はマネジメント領域で参加して接客を主に活動しました。今回は違う役割をやってみたく広報を担当させていただきました。実際活動してみると想像以上に忙しくとても苦労しました。その中でも特に勉強になったことは、昨年とは違う目線で感じる事ができたことです。カメラをとおして写真や動画を撮影すると他の役割をしている学生の頑張っている姿やピットの裏側や監督、ドライバーのインタビュー姿など昨年得られなかった経験ができました。

【一級自動車工学科 2年 松永 悠我】

昨年はテクニカル領域として参加しピット内での活動でしたが、今回は広報担当として色々な角度から活動を見ることができました。特に印象に残ったのは監督とドライバーのインタビューです。チーム全員からの信頼を得なければならない立場にいる監督やドライバーの考えや思いを知ることができ、これらをこれからの自分に活かし成長していきたいと感じました。

【自動車整備科 1年 岩崎 あづさ】

今回初めて参加して、右も左もわからないままに広報活動がはじまりました。オートポリスに到着し、二人の先輩が沢山の事を教えてくれ何をやるにも楽しく活動できました。広報は大変な仕事ではありますが、すごくやりがいがあり何よりとても楽しかったです。今回の経験を振り返り良かった点、反省点をまとめ、次の新入生たちに伝えて行きたいと思います。また来年広報としてチャレンジしたいです。

【自動車整備科 1年 大崎 一花】

今回初めて広報として参加させて頂きました。元々、参加予定はなかったのですが先生からお声がけ頂き参加を決断しました。出発前から沢山準備をしてきて、不安もいっぱいだったのですがほぼほぼ3日間計画通りに進めることができたので安心しています。とても大変だった広報活動ですが、やりがいのある活動でした。この経験をこれからの学校生活、就職してからにも活かしていきたいです。

今回の活動が無事終了できましたのも、KONDO Racing Team 様、各パートナー企業様、日産自動車/日産販売会社様のおかげです。本当にありがとうございました。

